

新春の候、皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、第47回探鉱新技術分科会を下記の要領で開催しますのでご連絡いたします。分科会委員の皆様には周辺の方々への周知と、分科会へのご出席をお願いいたします。委員に限らず話題提供にご興味をお持ちの皆様も奮ってご参加下さい。分科会に引き続き懇親会も計画しております。

分科会と懇親会、それぞれの出欠を【2月1日(木)】までに森田 (morita-s@aist.go.jp)までお知らせ下さい。また、分科会委員の交代等ございましたら、その旨お知らせ下さい。

会場となりますサピアタワーのセキュリティ上、出席を希望される方は必ず事前にお知らせ下さいますようお願い致します。

記

第47回探鉱新技術分科会

日時： 平成29年2月8日(木)15:30～17:30

場所： 石油資源開発株式会社 19階 1903会議室

〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目7番12号 サピアタワー

(末尾地図を参照下さい)

電話 (03) 6268-7000(代表)

話題： 新生代石炭の天然ガス排出タイミングを推定するための閉鎖系・準開放系実験

講師： 高橋 幸士

(産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門 燃料資源地質研究グループ)

要旨：

熱分解起源炭化水素ガスの炭素同位体組成($\delta^{13}C$ 値)は、起源有機物の熱熟成に伴って累進的に増加する。貯留岩に集積した炭化水素ガスが石炭起源のものであれば、炭化水素ガスの $\delta^{13}C$ 値は、ガス排出が生じたときの石炭層の平均的な熟成度(天然ガスの熟成度)を示しており、石炭に由来する天然ガスの挙動や、対象地域における資源ポテンシャルを検討する上で有用な情報である。石炭の熟成度(例えば、ビトリナイト反射率:VR_r%)と炭化水素ガスの $\delta^{13}C$ 値の関係を明らかにするための熱分解実験が数多く行われてきたが、そのほとんどは開放系～閉鎖系の間で生じる自然界の炭化水素ガス排出機構を考慮したものではない。また、新生代石炭は高い炭化水素生成能力を有するにも関わらず、新生代石炭を用いた実験的アプローチは少ない。近年、見直されつつある石炭の根源岩能力を的確に評価するためには、既存

の手法に捉われない革新的な実験システムの構築が不可欠である。

そこで本研究では、岩石試料を閉鎖系・準開放系で熱分解出来る実験システムを構築し、始新統石狩層群の石炭試料の熱分解実験を実施した。本研究で得られた結果に基づき、新生代石炭の VR_r (%) と炭化水素ガスの $\delta^{13}C$ 値の関係を示すダイアグラムを構築した。本発表では、炭化水素ガス排出時の新生代石炭の熟成度評価例を紹介し、本ダイアグラムの有用性を検討する。

★入館方法

サピアタワー3階の総合受付にて入館手続きを行ってください。入館カードが渡されますので、19階エレベータホールまでお越し下さい。係りが案内します(入館カードでは会議室スペースに入ることができませんので、ご了承下さい)。到着が遅れた場合は、分科会委員の奥村(090-7682-7367)もしくは早稲田(080-3442-1562)へ直接ご連絡ください。19階エレベータホールから会議室までご案内します。

懇親会:17:45～

場所: 近隣の居酒屋を予定

以上

探鉱新技術分科会

座長: 石油資源開発(株) 早稲田 周

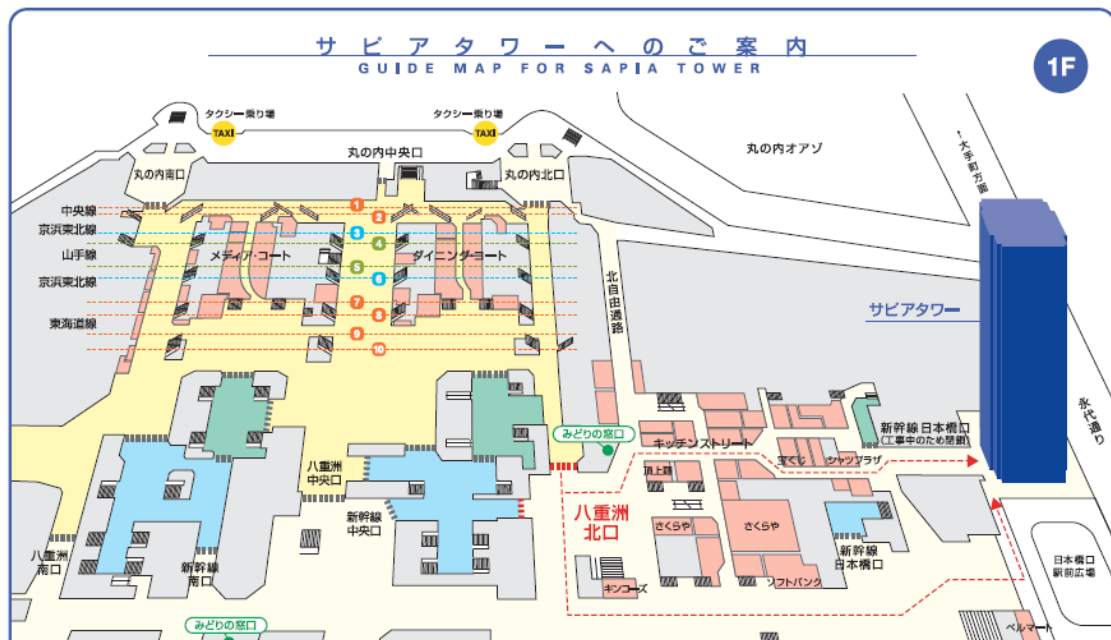
(国研)産業技術総合研究所 森田 澄人

石油資源開発株式会社 (JAPEX)

東京都千代田区丸の内1丁目7番12号 サピワタワー



JR「東京駅」日本橋口より徒歩30秒
 東京メトロ 丸の内線「東京駅」より徒歩1分
 東京メトロ 東西線、丸の内線、半蔵門線「大手町駅」B7出口より徒歩1分



- 在来線改札内
- 東海道・山陽新幹線改札内
- 東北・山形・秋田上越・長野新幹線改札内